

見えない未来へ一歩を！



文学部長
都筑 学
Manabu Tsuzuki

みなさん、卒業おめでとうございます。4月から始まる新しい生活を目の前にして、期待と不安の入り交じった気持ちで過ごしている人も少なくないかもしれません。期待と不安は、私たちの心の中で密接に関連して動いていく感情です。「こんなことをやってみたい」という期待が大きくなればなるほど、「自分にやれるだろうか」という不安も大きくなるものです。そのように感じたときに、最も頼りになるのは自分自身です。大学生活で学んで身につけたことに自信を持って、最初の一步を踏み出して欲しいと思います。

現代社会は、変化が激しく、先行きが見えない社会だと言われます。未来に対して、不透明感や閉塞感を持つ人も多くいることでしょう。みなさん方が一步を踏み出そうとしている未来とは、「未だ来ない」これから先のことです。その未来が、どんなものになるのかについて、あらかじめ知っている人は、この世の中に誰一人としていません。その意味で、誰も未来を知りません。私たちは、未来を予想(expect)し、未来に期待(expect)するしかないのです。未来に期待するということは、未来に希望を持つということです。みなさんには、これから先の未来に大いなる希望(hope)を持ち、未来への跳躍(hop)の一步を踏み出して欲しいと思います。

未来は見えない。だからこそ、私たちの人生は面白いのです。「見えない未来へ一歩を！」。その営みに対して、心からの祝福を送ります。

快樂よりも感動を！



総合政策学部長
松野 良一
Ryoichi Matsuno

卒業おめでとうございます。期待と不安を抱きながらの旅立ちだと思います。私は企業で25年ほど働いた経験がありますので、君たちには「ようこそ！実社会へ！」という言葉もかけたいと思います。

1年目の仕事は、どの業種も大変です。慣れるまで、辞めたいと思うことがあるかもしれません。私は最初、新聞記者になりましたが、入社1年目は、30回くらいは「辞めたい」と思いました。毎日毎日怒られました。「使えない奴」「向いていない」「何回言ったらわかるんだ」「もう一回行って来い」という罵声は、何度浴びたかわかりません。しかし、なんとか、仕事を続けられたのは、ある教訓を身に付けたからだと思います。

それは、「快樂よりも感動を」ということです。これはもともと、ナチスのアウシュビッツ収容所から生還した精神医学者、V・E・フランクルが言った内容です。「人生の幸福は、どれだけ快樂を得たかではなく、どれだけ感動を得たかで決まる」ということです。人間は怠惰で快樂に走りがちです。しかし、目標を定めて、少しずつ努力して、達成していく。苦難や壁を乗り越えて初めて、本当の感動があるということです。だから、辛いということは、その先に、感動が待っている序曲みたいなものだという指摘です。

皆さんは、大学時代にいろんな活動やプロジェクトをこなして来たと思います。最初は苦勞の連続だったことでしょう。でも、グループワークで力を合わせて課題を達成したことと思います。大舞台上でプレゼンしたり、コンテストで受賞したり、報告書などのアウトプットを出したことでしょう。その時の達成感、何物にも替え難いものだったのではないのでしょうか。努力して、少しずつ目標を達成していく。そして、少しずつ、自信を付けて行く。そのトレーニングの繰り返しが、人間を総合的に成長させると思います。

皆さんなら、実社会でも、元気に活躍してくれることと思います。仕事を辞めたいと思った時、向いてないと思った時、自信をなくした時は、どうか学部時代に行ったプロジェクトやゼミ活動、留学やインターンなどを思い出して下さい。きっと、もう一度やってみようという勇氣と希望が生まれてくるはずですよ。

そして、大学、学部はずっと、皆さんの「心のふるさと」であり続けます。いつでも遊びに来てください。また、お会いしましょう！